

## 132 No. 12:地酒イベントに出品、注目 (平成30年11月27日)

今月、栃木の地酒のイベントを3回開催した。1回目は、11月3日に開催した「栃木酒の日」である。

仕込みの時期のため蔵元の来港はかなわなかったが、県酒造組合の協力を得て、名だたる銘酒を集めることができた。

宇都宮酒造(宇都宮市)、片山酒造(日光市)、小島酒造店(塩谷町)、島崎酒造(那須烏山市)、せんきん(さくら市)、惣誉酒造(市貝町)、第

一酒造(佐野市)、西堀酒造(小山市)、松井酒造店(塩谷町)、渡辺佐平商店(日光市)の醸した地酒と、増田屋本店(壬生町)が企画したANGEL4を提供した。

来場者は日頃から日本酒を嗜み、舌の肥えた皆様だったが、すっきりさわやかなキレのあるもの、フルーティーな味わいのもの、芳醇な香りのものなど、それぞれ自分好みの味を求め、満面の笑みでテイastingを楽しんでいた。

また、東京フード(佐野市)のじゃがいもを使った揚げ物、佐野大黒屋(佐野市)の黒豆の煮物、すが野(壬生町)のごぼうの漬物等も好評で、バイヤーやレストラン関係者も大きな関心を寄せていた。

さらに、今回は香港人の日本酒に対する理解を深めるためのセミナーを併催。「ましだやコレクション(8本飲み比べセット)」を利用し、酒母の違いによる味の違いをレクチャーした。セミナーに参加した24人は、講師として来港した増田信義氏、小林大樹氏の説明に耳を傾け、メモを取りながら熱心に聞き入っていた。

11月8~10日には、アジア最大級の酒類の見本市である「ワイン&スピリッツフェア」に出展した。片山酒造が生原酒など、島崎酒造が古酒や梅酒ジュレなどを出品した。いずれも個性豊かな逸品であったためバイヤーの注目度も高く、多くの商談につながられた。

11月10、11日の両日は、在香港日本国総領事館が主導する秋祭り「ランカイフォンジャパンカーニバル」に出展した。井上清吉商店(宇都宮市)、片山酒造の地酒を提供した。場所柄、欧米人も数多く来場した。ややスモーキーな香りでリッチテイストな味わいの澤姫きもと純米や、まろやかな口当たりでややドライな原酒柏盛などを飲み比べ、大いに盛り上がっていた。

一般に香港人は向上心が高く、興味を持ったことは食欲に知識を習得しようとする。日本酒という文化を伝えながら、それをきっかけに栃木の地酒を広めていきたい。

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構(ジェトロ)に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。



【講義の様子】